

社会的な見方・考え方を育む社会科学習指導の工夫

— 「視点や方法を可視化するシート」を活用し、課題を追究したり解決したりする活動を通して —

呉市立昭和北小学校 宮田 剛

研究の要約

本研究は、社会的な見方・考え方を育む社会科学習指導の工夫について考察したものである。社会的な見方・考え方について、小学校学習指導要領（平成20年）において、全体像が不明確で、それを養うための具体策が定着できていないことが指摘されている。そこで、小学校学習指導要領解説社会編（平成29年）や文献研究を踏まえ、「社会的な見方・考え方」を「社会的事象を見たり考えたりする際の視点や方法」と捉え、その視点や方法をよりよく働かせるために、児童の思考を支援する「視点ヒントシート」と「振り返りシート」を開発した。「視点ヒントシート」は、児童自らが課題を発見できるよう三つの視点と既習内容の問いの例を可視化したもので、児童自らが課題を発見する支援となるシートである。「振り返りシート」は、「視点ヒントシート」を活用した学習過程における児童の思考プロセスや学び方を振り返るための支援となるシートである。この二つのシートを活用し、児童自らが課題を発見し、課題を追究したり解決したりする活動を通して、よりよく社会的な見方・考え方を働かせた結果、説明力の高い概念等に関する知識を獲得することができた。

キーワード：社会的な見方・考え方を育む 視点ヒントシート 振り返りシート

I 主題設定の理由

幼稚園、小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校の学習指導要領等の改善及び必要な方策等について（答申）（平成28年、以下「中教審答申」とする。）では、「『社会的な見方・考え方』は、社会的事象等を見たり考えたりする際の視点や方法であり、時間空間、相互関係などの視点に着目して、事実等に関する知識を習得し、それらを比較、関連付けなどして考察・構想し、特色や意味、理論などの概念等に関する知識を身に付けるために必要となるものである。」¹⁾と示され、社会的な見方・考え方を育む重要性が一層増していると考えられる。

また、「中教審答申」には、小学校学習指導要領（平成20年）において、「社会的な見方や考え方については、その全体像が不明確であり、それを養うための具体策が定着するには至っていないこと。」が指摘されている⁽¹⁾。これまでの稿者の実践においても、地域の社会的事象を取り上げ、授業実践を重ねてきたが、社会的事象に関する基礎的な知識や技能を習得させるだけに留まり、社会的な見方や考え方を意識した指導が十分にできていなかった。

そこで、本研究では、社会的事象等を見たり考え

たりする際の視点や方法を児童と共有するための「視点や方法を可視化するシート」を開発する。このシートは、時間、空間、相互関係などの視点や比較、関連付けなどの考え方を示しており、児童が課題を追究したり解決したりする活動の中で活用するものである。また、「社会的な見方・考え方」は、課題の追究や解決の場面で働かせ、児童に考えさせる学習場面を位置付け、説明や議論等の活動の中で自分の考えを往還し、社会的事象の特色や意味、理論などの概念等に関する知識を身に付けることで成長するため、第4学年の学習指導において、自分の考えを往還しながら課題を追究したり解決したりする活動を取り入れる。このシートを活用した授業実践を検証し、修正や改善を加え、さらに授業実践を行う。このような理論研究と授業実践を重ねることで、より効果的に「社会的な見方・考え方」を育むことができると考え、本研究題目を設定した。

II 研究の基本的な考え方

1 社会的な見方・考え方について

(1) 追究の視点と社会科の学習内容の整理

「中教審答申」では、「『社会的な見方・考え方』は、社会的事象等を見たり考えたりする際の視点や方法である。」と示され、社会の在り方や、社会的事象等の意味や意義、特色や相互の関連等を考察する際の追究の視点例について、表1のように整理している⁽²⁾。

表1 追究の視点例

小学校社会		
位置や空間的な広がり の視点	時期や時間の経過 の視点	事象や人々の相互関係 などの視点
地理的位置、分布、地形、環境、気候、範囲、地域、構成、自然条件、社会条件、土地利用など	時代、起源、由来、背景、変化、発展、継承、維持、向上、計画、持続可能性など	工夫、努力、願い、業績、働き、つながり、関わり、仕組み、協力、連携、対策、事業、役割、影響、多様性と共生(共に生きる)など

小学校社会科では、社会的事象を総合的に捉える内容として構成されているため、指導内容が社会科全体においてどのような位置付けにあるか、意識しづらいという課題が指摘されていた。今回、表1のように追究の視点例が具体的に示されるとともに、小学校の学習内容を、地理的環境と人々の生活、現代社会の仕組みや働きと人々の生活、歴史と人々の生活という三つの枠組みに位置付けられ、小学校学習指導要領解説社会編（平成29年、以下「29年解説」とする。）では、学習内容が整理されている⁽³⁾。

このように追究の視点例が具体的に示され、学習内容が三つの枠組みで整理されたことにより、系統性を意識した単元構成が組みやすくなった。また、「29年解説」には、「どのような場所にあるか、どのように広がっているかなどと、分布、地域、範囲（位置や空間的な広がり）などを問う視点から、また、なぜ始まったのか、どのように変わってきたのかなどと、起源、変化、継承（時期や時間の経過）などを問う視点から、あるいは、どのようなつながりがあるか、なぜこのような協力が必要かなど、工夫、関わり、協力（事象や人々の相互関係）などを問う視点から等の問い」⁽²⁾といった追究の視点に基づいた問いの例が示されており、社会的な見方・考え方を働かせるための問いの設定をする際に参考にすることができるようになった。

(2) 社会的な見方・考え方について

「社会的な見方・考え方」について、「29年解説」

では、「位置や空間的な広がり、時期や時間の経過、事象や人々の相互関係などに着目して（視点）、社会的事象を捉え、比較・分類したり総合したり、地域の人々や国民の生活と関連付けたりすること（方法）と考えられる。」⁽³⁾と示されている。また、大杉昭英（2017年）は、「『位置や空間的な広がり』、『時期や時間の経過』、『事象や人々の相互関係』などに着目して、社会的事象を見出し、『比較、分類』したり『総合』したりして、『地域の人々や国民の生活と関連付ける』といったように、地理学や歴史学の研究方法を範とした、いわば、どのようにしたら『答え』を導き出せるのか、その手続き（ハウ・ツー）が、『視点』と『方法』になっている。」⁽⁴⁾と、述べている。このように、「社会的な見方・考え方」を追究の視点や方法と捉え、追究の視点や方法を用いて、どのように学び、どのような力を身に付けるのかが重要になってくる。「29年解説」にも明記されているが、追究の視点や方法を用いて学習を進めることは、資質・能力全体に関わるものであり、思考力、判断力を育成することと密接な関係があるとしている。

そこで、本研究では、「社会的な見方・考え方」を社会的事象を見たり考えたりする際の視点や方法と捉え、思考力・判断力・表現力等の資質・能力を育成するために、社会的な見方・考え方をどの場面ですべてどのように働かせればよいのかについて研究を進めていくこととする。

2 社会的な見方・考え方を育むことについて

(1) 社会的な見方・考え方を働かせることとは

社会的な見方・考え方を働かせることについて、「29年解説」では、「視点や方法（考え方）を用いて、調べ、考え、表現して、理解したり、学んだことを社会生活に生かそうとしたりすることなどでありこれらの学びは、思考力や判断力の育成のみならず社会的事象の意味や特色を理解すること、主体的に学習に取り組む態度にも作用することが考えられる。」⁽⁵⁾と明記されている。

また、澤井陽介（2017）は、社会的事象の見方・考え方を働かせるイメージについて、次頁図1のように示し、「知識・技能や思考力・判断力・表現力等の資質・能力を互いに結び付けるスキルの視点や方法であり、子供たちが使いながら考え、それ自体を成長させていくものであると考えられる。」⁽⁶⁾と述べている。

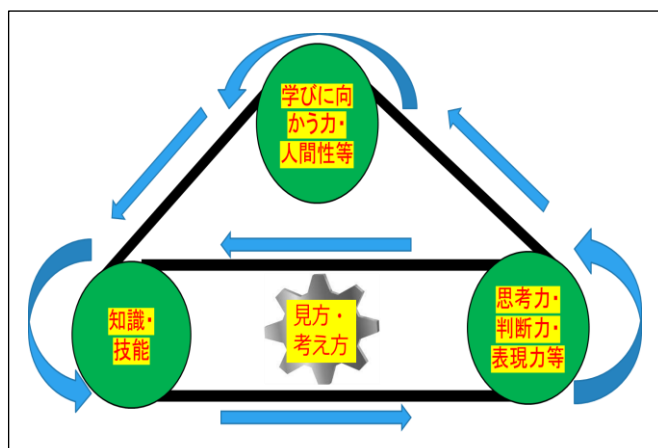


図1 社会的事象の見方・考え方を働かせるイメージ図

これらのことを踏まえると、社会的な見方・考え方を働かせることとは、「学びに向かう力・人間性等」「知識・技能」「思考力・判断力・表現力等」を相互に結び付け促進させることであり、その社会的な見方・考え方は三者が促進されることで、それ自体も成長する密接な関係であると考えられる。

しかし、本研究においては、「社会的な見方・考え方」を社会的事象を見たり考えたりする際の視点や方法と定義しており、どのように成長するのか検証するのが難しい。そこで、社会的な見方・考え方を働かせる学びを進める中で思考力・判断力・表現力等の資質・能力の育成を図ることとする。

(2) 思考力・判断力・表現力等について

「29年解説」では、思考力・判断力・表現力等について、「小学校社会科における『思考力、判断力』は、社会的事象の特色や相互の関連、意味を多角的に考える力、社会に見られる課題を把握して、その解決に向けて、学習したことを基に、社会への関わり方を選択・判断する力である。」⁷⁾と示されている。また、表現力については、「考えたことや選択・判断したことを説明する力や考えたことや選択・判断したことを基に議論する力などである。」⁸⁾と示されている。

本研究では、思考力・判断力・表現力等について社会的事象の特色や相互の関連、意味を多角的に考える力に焦点化し、研究を進めていくことにする。

北俊夫(2017)は、社会的事象の特色や相互の関連、意味を多角的に考えることについて、複数の視点から複数の事象や事実相互を比較し関連付けたり総合したりする思考であると述べている⁽⁴⁾。また、森分孝治(1978)は、社会的事象や事実を相互に吟味することを通して、より説明力の高い概念等に関する知識を獲得できると述べている⁽⁵⁾。吟味すること

とは、社会的事象の特色や相互の関連、意味を多角的に考えることと解釈できる。

そこで、本研究における思考力・判断力・表現力等の育成について、複数の視点に着目し、社会的事象や事実を比較し関連付けたり、総合したりする思考を通して、説明力の高い概念等に関する知識の獲得を目指すこととする。

3 課題を追及したり解決したりする活動について

(1) 課題を追及したり解決したりする活動

「29年解説」には、課題を追及したり解決したりする活動について、「小学校社会科においては、学習の問題を追及・解決する活動、すなわち問題解決的な学習過程を充実させることが大切になる。」⁹⁾と示されている。

岡崎誠司(2013)は、社会的な見方・考え方を育むためには、社会科の授業において、子供の「考えたい、調べたい」という問題意識すなわち学習問題の成立から始まり、予想を子供相互の話し合いの過程で理由・根拠のある仮説とし、吟味していく。そして多くの他者が納得できるかどうかを検証する。この一連の授業展開が重要であると述べている⁽⁶⁾。

このことから、社会的な見方・考え方を育むためには、児童自らが課題を発見し、課題を追及したり解決したりする活動が必要であることが分かる。

(2) 課題を発見することについて

「29年解説」には、「課題を追及したり解決したりする活動を充実させるためには、児童が社会的事象から問題を見だし、問題解決の見通しをもって他者と協働的に追及し、追及結果を振り返ってまとめたり、新たな問いを見いだしたりする学習過程などを工夫することが考えられる。」¹⁰⁾と示されている。

吉水裕也(2002)は、「社会科が育てるべき子供像を見据えた上での社会科の内容と直接かかわった問題(課題)を発見することが重要である。」¹¹⁾と述べており、このことから、児童自らが課題を発見することと発見する課題の内容が重要であることが分かる。

(3) 学習の振り返りについて

白水始(2016)は、思考力の育成のために必要な要素として、理由や根拠まで問題を深く追及して納得する経験や、その思考プロセスを内省的に振り返り学び方を学ぶといった経験を繰り返すことが重要であり、意図的に学び方を振り返る機会を設ける必要

があると述べている⁽⁷⁾。

「29年解説」にも、改定の基本方針の中で、「1回1回の授業で全ての学びが実現されるものではなく、単元や題材など内容や時間のまとまりの中で、学習を見通し振り返る場面をどこに設定するのが重要である」⁽¹²⁾と示されている。

これらのことから、社会的事象の特色や相互の関連、理論などの説明力の高い概念等に関する知識を身に付けることをゴールに据え、どのような視点でどのように考えたのか、児童の思考プロセスや学び方の振り返りを意図的に設定し繰り返すことで、児童自らが、社会的な見方・考え方を働かせることにつながると考える。

(4) 問題解決的な学習について

上記で述べたように、社会的な見方・考え方を育むためには、社会的な見方・考え方を働かせ、児童自らが課題を発見し、その課題を追究したり解決したりする活動とその活動の充実を図るために学習の振り返りが必要だと分かる。

澤井（2013）は、「社会科の授業原理は、子供が自ら問題を持ち自ら解決していく問題解決的な学習です。」⁽¹³⁾と述べている。表2は、澤井の問題解決的な学習の学習過程に、稿者が加筆・修正したものである。

表2 問題解決的な学習の学習過程（一部加筆・修正）

過程	学習展開
つかむ	①社会的事象と出会う ②学習課題を発見する ③学習計画を立てる
調べる	④学習計画に基づいて追究する
まとめる	⑤調べて分かったことや考えたことをまとめて解決する ⑥新たな課題を発見する（③～⑤の学習活動） ⑦学習の振り返りをする

「つかむ」過程は、児童が社会的事象と出会い、学習課題を発見し、学習計画を立てる過程である。前述の追究の視点を意識させ、視点に着目した思考により単元全体の課題を発見し、この課題を解決するための学習計画を立てる必要がある。

「調べる」過程は、学習計画に基づき、課題を追究する過程である。子供たちは、自分たちが立てた学習計画に基づき、課題を追究していく。

「まとめる」過程は、調べて分かったことや考えたことをまとめて単元全体の課題を解決する過程である。この過程では、課題を追究し、解決する中で

新たな学習課題を発見していく。そして、また、新たな追究や解決を繰り返すこととなる。澤井（2013）は、「『社会的な見方や考え方』は、社会的事象の意味や特色を『どのような』『なぜ』と追究・考察する際に使われるものである。」⁽¹⁴⁾と述べており、社会的な見方・考え方を働かせる場面を意図的に設定することが重要であると捉えることができる。そして、課題の解決に至る思考プロセスや学び方を振り返ることで、学習内容や学習方法がよりよく身に付くはずである。このような問題解決的な学習を繰り返すことを通して、児童自らが社会的な見方・考え方を働かせることにつながると考える。

以上のことから、社会的な見方・考え方を育むために、児童自らが課題を発見し、課題を追究したり解決したりする問題解決的な学習を繰り返し行い社会的な見方・考え方を働かせた学びを進める中で説明力の高い概念等に関する知識を獲得することにする。

4 視点や方法を可視化するシートについて

本研究においては、「視点や方法を可視化するシート」として、「つかむ」過程で活用する「視点ヒントシート」と「まとめる」過程で活用する「振り返りシート」を開発することとする。

(1) 「視点ヒントシート」について

ア 「視点ヒントシート」と問いの構造化

岡崎（2013）は、問いの構造化について、「授業では、教師の発問によって、子どもの社会的見方・考え方を成長させることができると言っても過言ではない。言い換えれば、発問は構造化されて初めて効果的に、社会的見方・考え方を成長させることができる」⁽¹⁵⁾と述べており、稿者が一部加筆・修正したものを図2に示している。

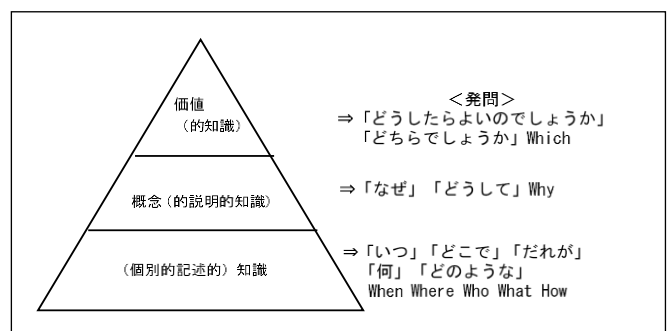


図2 問いの構造化（一部加筆・修正）

「いつ」「どこで」「だれが」「何」「どのような」の問いは、個々の事実を習得するために、「な

ぜ」「どうして」の問いは、社会的事象の特色や意味、理論などの説明力の高い概念等に関する知識を獲得するための思考を促すものとなる。「どうしたら～」「どちらが～」の問いは、学習したことを基に、自分の主張を考えるものとなる。

澤井（2013）は、「子どもが考えるようにするためには、学習問題や日々の授業の中での教師の発問が大きな役割を果たします。子どもたちが事実を調べないうちに『なぜ～』『どうすれば』と問いかけてもむずかしいこと、『何か気づくことはないですか』と繰り返しても、特色や意味を考える授業にはならないことなどがわかります。」¹⁶⁾と述べ、学習問題と発問の類型について、表3のように示している。

表3 学習問題と発問の類型

学習問題と発問の類型	問いかけに込められる意図
・何が～	・事実を調べる
・どのように（な）～	・情報を集め、特色を考える
・なぜ～	・意味や意義を考える ・原因を考える
・～なのに なぜ～をするのか	・情報を比較・関連づけ、意味を考える
・どうすれば～ （どっちが～）	・自分の考えをまとめる ・方策や参画を考える
・どうすれば～は もっと～となるか	・調べたことをもとに自分の主張を考える

学習問題や発問を明確にすることは、何を調べ、何を考えるようにするかを明確にすることであり、教師が授業設計を行う際に必要となるものである。

社会的な見方・考え方を働かせるためには、子供たち自身が課題を発見し、学習課題として設定していくことが大切になってくる。しかし、実際に教室で子供たちに学習課題を作らせると、「何が～」といった事実を問う課題が多く出てくる。

そこで、本研究では、児童自らが課題を発見し、課題を追究したり解決したりする学習において、視点や方法を可視化するシートを開発する。「視点ヒントシート」は、児童の思考を支援する位置や空間的な広がり、時期や時間の経過、事象や人々の相互関係などの三つの視点と追究の視点に基づいた問いの例を可視化したものである。その際、「どのように～」「なぜ～」の問いは、情報を集め、社会的事象の特色や意味、理論などの説明力の高い概念等に関する知識を考える視点として有効であるため、可視化しておく。「視点ヒントシート」を活用するこ

とで、どの児童も単元全体の課題を発見し、課題を追究したり解決したりするための小さな課題を設定し、追究する中で、自分の考えを往還しながら思考を深め、説明力の高い概念等に関する知識を獲得することができると思う。

イ 「視点ヒントシート」の作成について

「視点ヒントシート」について先に述べたが、第3学年「地域に見られる生産や販売の仕事」と第4学年「人々の健康や生活環境を支える事業」との系統性を考慮し、「視点ヒントシート」の作成手順を具体的に示すと、以下のとおりとなる。

- ① 学習内容を洗い出す。
- ② 社会的事象の様子や具体的な事実から、その特色や意味、理論などの説明力の高い概念等に関する知識を明らかにする。
- ③ 上記の①と②をつなぐ問い（学習課題）を設定する。
- ④ ③の問い（学習課題）を追究するための小さな課題を整理する。
- ⑤ 児童に分かりやすい言葉でシートに表す。

①では、学習指導要領の内容に示されている「調べる内容」や教科書の記述などを基に、社会的事象の様子や具体的な事実を洗い出す。

②では、学習指導要領の内容に示されている「考えるようにすること」を基に、①で洗い出した社会的事象の様子や具体的な事実から、その特色や意味、理論などの説明力の高い概念等に関する知識を明らかにする。具体例として、次頁表4の右側に示している。

③では、上記①と②をつなぐ問い（学習課題）を設定する。ここでは、「なぜ～」「どのように～」といった特色や意味、理論などに結び付く問い（学習課題）が考えられる。表4には、「昭和北小学校の水道水は、どこでつくられ、どのように運ばれてくるのだろうか。」と設定している。


④では、③で設定した単元全体の課題を追究するための小さな課題を整理する。この際、時期や時間の経過、位置や空間的な広がり、事象や人々の相互関係などといった追究の視点を生かしつつ、学習課題を整理する。その際、「29年解説」の学習内容の枠組みを基に、内容的につながる前単元で用いた問い（学習課題）の例も合わせて整理する。表4には、第3学年「地域にみられる生産や販売の仕事」と第4学年「人々の健康や生活環境を支える事業」の小さな課題を示している。

①～④までは教師の教材研究である。⑤では、教

表4 系統性を意識した追究の視点に基づいた問いの例

現代社会の仕組みや働きと人々の生活				
経済・産業				
	時期や時間の経過の視点に基づいた問いの例	位置や空間的な広がり視点に基づいた問いの例	事象や人々の相互関係などの視点に基づいた問いの例	獲得させたい説明力の高い概念等に関する知識
第3学年 「地域に見られる生産や販売の仕事」	① スーパーは何時から何時まであいているのだろうか。(時間) ② いつ、どのように、スーパーはできたのだろうか。(時代、背景) ③ なぜ、スーパーは今も続いているのだろうか。(変化)	① どのような場所に、スーパーはできるのだろうか。(位置) ② なぜ、この場所にスーパーはできたのだろうか。(社会条件) ③ スーパーの商品は、どこから運ばれてくるのだろうか。(場所)	① スーパーには、どのような仕事があるのだろうか。(努力、工夫) ② なぜ、スーパーはオリジナル商品をつくっているのだろうか。(工夫、願い)	○ 地域の生産・販売の仕事は、地域の人々の生活と深く関わっており、消費者の願いを踏まえ、売り上げを高めるようにさまざまな仕事の努力や工夫をしている。また、販売の仕事(果物、魚、肉など)は、外国との関わりがある。
第4学年 「人々の健康や生活環境を支える事業」	単元全体の課題 昭和北小の水道水は、どこでつくられ、どのように運ばれてくるのだろうか。			
	① いつでも、水が飲めるのはなぜか。(時間) ② いつ、どのように水をきれいにしているのか。(変化) ③ なぜ、水はなくならないのか。(維持、持続可能性)	① どこでも、水が飲めるのはなぜか。(分布) ② どこで、水をきれいにしているのか。(場所) ③ 水はどこから運ばれてくるのか。(場所)	① 浄水場で働く人たちは、どのような仕事をしているのだろうか。(努力、工夫) ② なぜ、浄水場で水質検査をしているのに、水道局で働く人たちは、32か所のじゃ口の水質検査を毎日しているのだろうか。(願い、協力)	○ 安全な飲料水(電気、ガス)を安定して供給するために、施設で働く人たちは、さまざまな工夫や努力をしたり県内外の人たちと協力している。

教材研究として整理した表4を基に、児童の目線に置き換え「視点ヒントシート」として図3に表す。



社会科はかせへの道

～どのように?なぜ?を調べて、はかせになろう!～

時間	場所や位置	人や事象
どのように(な)… なぜ…	どのように(な)… なぜ…	どのように(な)… なぜ…
たとえば、 ○ スーパーは何時から何時まであいているのだろうか。 ○ いつ、どのように、スーパーはできたのだろうか。 ○ なぜ、スーパーは今も続いているのだろうか。	たとえば、 ○ どのような場所に、スーパーはできるのだろうか。 ○ なぜ、この場所にスーパーはできたのだろうか。 ○ スーパーの商品は、どこから運ばれてくるのだろうか。	たとえば、 ○ スーパーには、どのような仕事があるのだろうか。 ○ なぜ、スーパーはオリジナル商品をつくっているのだろうか。

図3 視点ヒントシート

(2) 「振り返りシート」について

視点ヒントシートを活用することにより、社会的な見方・考え方を働かせて、課題を発見し、視点ヒントシートの視点「時間」「場所や位置」「人や事象」を基に、課題を追究したり解決したりする学習を進め、社会的事象の特色や意味、理論などの説明力の高い概念等に関する知識を身に付けていく。

「振り返りシート」は、視点ヒントシートを活用

した学習過程における児童の思考プロセスや学び方を振り返るための支援となるシートである。「振り返りシート」を次頁図4に、図4の一部を拡大したものを次頁図5に示す。

「振り返りシート」について、第4学年「県内の特色ある地域の様子」の単元を取り上げて説明する。

①は、単元全体を貫く学習課題を記述し、単元全体の見通しをもつことで、その課題と本時の学習内容をつなげて考えることができるようにしている。

②では、パンフレットやポスターなど単元のゴールとして設定した学習活動に取り組んだ後、小単元の学習を通して獲得した社会的事象の特色や意味、理論などの説明力の高い概念等に関する知識を記述する。例えば、「伝統的な工業などの地場産業の盛んな地域」として取り上げた熊野町を事例とした学習では、「江戸時代から始まった伝統ある筆づくりを生かして、様々な人が協力して町づくりをしている」といった内容となる。パンフレットやポスターではキーワードや図などで表現されるため、このように文章で表現させることで、どのような知識を獲得したのか可視化できる。

③では、どのような視点で、どのように考えたのか、児童の思考プロセスを表出させる。そのために視点ヒントシートに示している「時間」「場所や位置」「人や事象」といった視点をイラスト付きで示しておく。その思考プロセスや学び方を表出させる

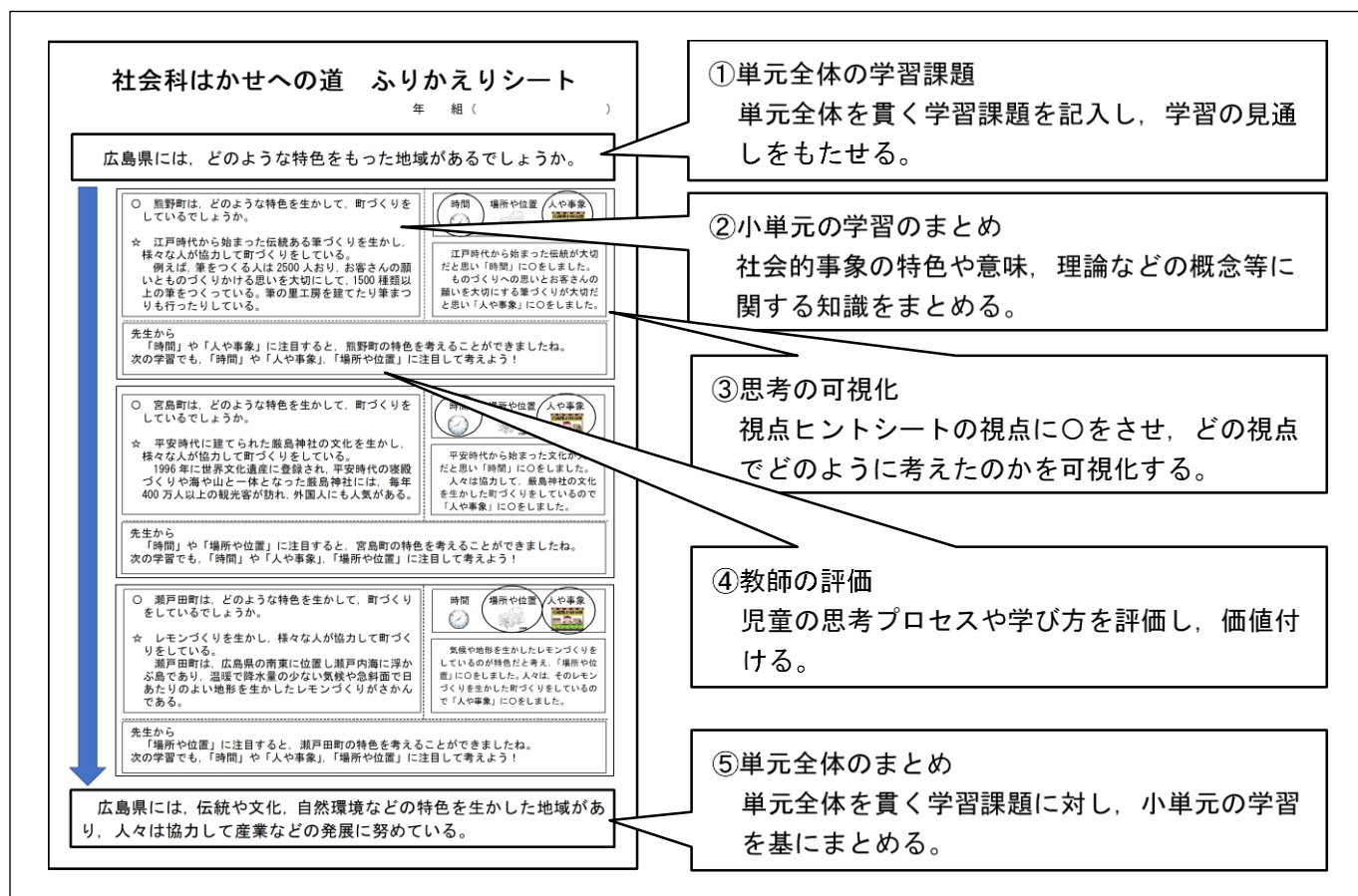


図4 振り返りシート

広島県には、どのような特色をもった地域があるでしょうか。

○ 熊野町は、どのような特色を生かして、町づくりをしているでしょうか。

☆ 江戸時代から始まった伝統ある筆づくりを生かし、様々な人が協力して町づくりをしている。

例えば、筆をつくる人は2500人おり、お客さんの願いとものづくりかける思いを大切に、1500種類以上の筆をつくっている。筆の工房を建てたり筆まつりも行ったりしている。

先生から
『時間』に注目すると、伝統ある筆づくりを、『人や事象』に注目すると伝統ある筆づくりを生かすために様々な人が協力していることもわかりましたね。
次の学習でも、『時間』や『人や事象』、『場所や位置』に注目して考えよう！

時間	場所や位置	人や事象
江戸時代から始まった伝統が大切だと思ひ『時間』に○をしました。	ものづくりへの思いとお客さんの願いを大切に筆づくりが大切だと思ひ『人や事象』に○をしました。	

広島県には、伝統や文化、自然環境などの特色を生かした地域があり、人々は協力して産業などの発展に努めている。

図5 振り返りシート（一部拡大）

ために、「時間」「場所や位置」「人や事象」の視点に丸をさせ、具体的にどのように考えたのかを記述させる。「江戸時代から始まった伝統が大切だと思ひ『時間』に丸をしました」「ものづくりへの思

いとお客さんの願いを大切にする筆づくりが大切だと思ひ『人や事象』に丸をしました」などと記述することで、自分の用いた視点を可視化し、振り返ることができる。

④では、社会的な見方・考え方を働かせた児童の思考プロセスに肯定的な助言、指導を記述する。そうすることで、児童が自分では気付かなかった視点や考え方に気付くことができる。また、自分の思考プロセスを肯定的に評価し、価値付けてもらうことで、思考するための視点や方法を意識して、次の学習や生活に意欲的に生かすこともできる。例えば、「『時間』に注目すると、伝統ある筆づくりを、『人や事象』に注目すると、伝統ある筆づくりを生かすために様々な人が協力していることもわかりましたね。次の学習でも、『時間』や『人や事象』、『場所や位置』に注目して考えよう！」といった内容となる。

⑤では、単元全体のまとめとして、単元を通して獲得した社会的事象の特色や意味、理論などの説明力の高い概念等に関する知識を記述する。例えば、単元全体の課題「広島県には、どのような特色をもった地域があるでしょうか」に対して、児童が作成し

た「広島県PRパンフレット」や「振り返りシート」を参考にしながら、「広島県では、伝統や文化、自然環境などの特色を生かした地域があり、人々は協力して産業などの発展に努めている」といった内容となる。

Ⅲ 研究の仮説及び検証の視点と方法

1 研究の仮説

視点ヒントシートと振り返りシートを活用し、児童自らが課題を発見し、課題を追究したり解決したりする問題解決的な学習を繰り返し行えば、社会的な見方・考え方を働かせた学びを進める中で、説明力の高い概念等に関する知識を獲得することができるだろう。

2 検証の視点と方法

検証の視点と方法について、表5に示す。

表5 検証の視点と方法

検証の視点	方法	
○単元全体の課題を発見し、その課題を解決するための小さな課題を設定することができたか。	前期	ノート
	後期	プレテスト① ポストテスト①
○説明力の高い概念等に関する知識を獲得できたか。	後期	プレテスト② 視点ヒントシート 振り返りシート ポストテスト②
	後期	視点ヒントシート 振り返りシート アンケート

Ⅳ 研究授業（前期）について

1 研究授業（前期）の内容

- 期 間 平成29年6月15日～平成29年6月29日
- 対 象 所属校第4学年（3学級116人）
- 単元名 水はどこから

2 研究授業（前期）の概要

研究授業（前期）では、「水はどこから」の単元において、視点ヒントシートを活用し、「つかむ」過程における学習問題を発見する学習場面を中心に研究を進めた。

本研究における授業の概要を図6に示し、学習問題を発見する学習場面における指導の流れを具体的に説明する。

まず、社会的事象との出会いの場面では、単元全体の課題を発見するために、資料提示の工夫を行った。「いつでも」を想起させるために「朝と夜の学校の蛇口の水」の資料、「どこでも」を想起させるために「校区内の公園の蛇口の水」の資料、「水の有限性」を想起させるために「プール」「お風呂」「1日一人あたりの水道水の使用量」の資料を構造的に黒板に示した。

次に、前単元で用いた資料を基に、単元全体の課題を発見し、解決するための学習方法を確認した。具体的には、視点ヒントシートを用いながら、既習であるスーパーマーケットの学習を復習し、どのような視点で、どのように考え、学習を進めたのかを振り返らせた。

学習過程	時	単元全体の課題	小さな課題	視点 ヒントシート	獲得させる概念等に関する知識
つかむ	1	北小の水道水は、どこでつくられ、どのように運ばれてくるのだろうか。	水道水について調べたいことを見つけよう。	<div>視点 ヒントシート</div> <div>社会的な見方・考え方を働かせる学習</div>	
	2		単元全体の課題について、予想をしよう。		
調べる	3	なぜ、水道水は、いつでも飲めるのだろうか。	北小の水道水は、どのように運ばれてくるのだろうか。		水道水の経路について調べ、学校のじゃ口は、学校のポンプ室から、配水管で本庄ずい道配水池、瀬野川浄水場につながっている。
	4		北小の水道水は、どこで、どのようにつくられているのだろうか。		浄水場には水をきれいにする仕組みがあり、浄水場で太田川の水はきれいにされている。
	5		浄水場で働く人は、どのような仕事をしているのだろうか。		浄水場で働く人の仕事を調べ、浄水場では、水の状態を機械で24時間管理したり水質検査をしたりして、安全な水をとっている。
	6		浄水場で水質検査をしているのに、なぜ、水道局で働く人たちは、32か所のじゃ口の水質検査をしているのだろうか。		浄水場と水道局の水質検査を比較したり関連付けたりして考え、安全な水をとげるために、協力して時間をかけて水質検査をしている。
	7	なぜ、水はなくなるのだろうか。	水道局で働く人たちは、どのような仕事をしているのだろうか。		水道局の仕事を調べ、水道局で働く人たちは、いつでも、どこでも、安全な水をとげるために配水管の工事や検査、ダムや浄水場の管理をしている。
	8		本庄水源地は北小に近いのに、なぜ、本庄水源地のダムの水は北小に運ばれないのだろうか。		本庄水源地の水の流れを調べ、自分の住んでいる地域だけでなく、呉市や他の市町村の人々とも協力して、計画的に水を運び、人々の生活環境を守っている。
	9		昭和小学校の水道水は、どこでつくられ、どのように運ばれてくるのだろうか。		北小の水道水は、川の水を浄水場できれいにし、配水池から運ばれてくる。安全な飲料水を安定して供給するために、施設で働く人たちは、さまざまな工夫や努力をしたり県内外の人たちと協力したりしている。
まとめる	10		なぜ、水はいつでも飲めて、なくなるのだろうか。		

図6 本研究における授業の概要（前期）

それから、単元全体の課題を発見する学習場面では、一人に1枚視点ヒントシートを配付し、シートに書かれている視点や黒板に提示している資料を基に、単元全体の課題を発見させた。その後、全体で話し合い、学級全体で解決していく単元全体の課題を決定し、その課題を解決するための小さな課題について、視点ヒントシートを基に考えさせた。

社会的な事象との出会いと前単元の復習（スーパーマーケットの学習）をつなげて、視点ヒントシートを用いて指導することで、単元全体の課題をどの児童も発見し、その課題を解決するための小さな課題を設定できるように試みた。

3 研究授業（前期）の分析と考察

(1) 単元全体の課題を発見し、その課題を解決するための小さな課題を設定することができたか

授業の実際とノートの記事を分析、考察すると、意図的な社会的な事象との出会いと前単元の復習をつなげて、視点ヒントシートを使い指導することで全ての児童が、「北小の水道水は、どこでつくられ、どのように運ばれてくるのだろうか。」「なぜ、水道水は、いつでも飲めるのだろうか。」「なぜ、水はなくなってしまうのだろうか。」といった単元全体の課題を発見することができた。次に、単元全体の課題を解決するために、複数の視点に着目して小さな課題を発見することができた人数（延べ人数）を表6に示す。視点とは、時期や時間の経過の視点、位置や空間的な広がり、事象や人々の相互関係などの視点であり、以降、時期や時間の経過の視点は「（時）の視点」、位置や空間的な広がり、事象や人々の相互関係などの視点は「（空）の視点」、事象や人々の相互関係などの視点は「（人）の視点」と表すことにする。

表6 複数の視点に着目して小さな課題を発見することができた人数（延べ人数）

○（時）（空）（人）の視点のうち、二つ以上の視点に着目し、小さな課題を発見している。	31
○（時）（空）（人）の視点のうち、一つの視点に着目し、小さな課題を発見している。	116
○無記入	0

単元全体の課題を解決するための小さな課題を考える場面では、（時）（空）（人）の視点のうち、二つ以上の視点に着目して、小さな課題を発見している児童は31人に留まった。この要因としては、社

会的な見方・考え方を働かせる学びの経験が少なく学習課題を発見させる学習において、三つの視点に着目して思考することを意識できなかったためだと考えられる。また、黒板に示した資料と視点ヒントシートを同時に見ながら、視点に着目した思考により発見した小さな課題をノートに表出することは難しかった児童もいた。改善案としては、視点ヒントシートを繰り返し活用し社会的な見方・考え方を働かせる学びを進めること、視点ヒントシートに記述できるスペースを設け、視点に着目した思考により発見した小さな課題を整理しやすいようにすることである。

(2) 成果と課題

社会的な見方・考え方を働かせ、単元全体の課題を発見することができた。しかし、単元全体の課題を解決するための小さな課題を複数の視点に着目して設定することに課題が残った。

V 研究授業（後期）について

1 研究授業（後期）の内容

- 期 間 平成29年12月1日～平成29年12月20日
- 対 象 所属校第4学年（3学級116人）
- 単元名 県内の特色ある地域

2 研究授業（後期）の概要

研究授業（後期）では、研究授業①を踏まえ、単元を通して、社会的な見方・考え方を働かせた問題解決的な学習を繰り返す単元構成を工夫した。その学習過程と連動させて、視点ヒントシートと振り返りシートを活用した本研究における授業の概要を次頁図7に示し、説明する。

(1) 単元を構成する課題と視点ヒントシート

研究授業（前期）の概要でも示しているように、視点ヒントシートを活用し、単元全体の課題とその課題を解決するための小さな課題を設定していく。研究授業（後期）の「県内の特色ある地域」における単元を構成する課題の関係を表7に示すことにする。

表7 単元を構成する課題の関係

単元全体の課題		
小単元の課題	小単元の課題	小単元の課題
○小さな課題 ○小さな課題 ○小さな課題	○小さな課題 ○小さな課題 ○小さな課題	○小さな課題 ○小さな課題 ○小さな課題

次に、小単元の課題を発見させるために、広島県

そして、小さな課題を発見させるために、視点ヒントシートを活用し、熊野町について調べたいことを発見させる学習を展開した。小単元の課題「熊野町は、どのような特色をもった地域でしょうか。」を解決するために、(時)の視点に着目して「いつから、筆づくりをしているのだろうか。」、(空)の視点に着目して「熊野町は、どのような自然環境なのだろうか。」(人)の視点に着目して、「どの

図7 本研究における授業の概要（後期）

ように毛筆をつくっているのだろうか。」などの小さな課題を発見させた。

その後、廿日市市宮島町や尾道市瀬戸田町を事例とした学習も、熊野町の事例を取り上げた小単元と同じ展開で進めた。児童は、学習を繰り返すごとに視点ヒントシートの活用方法を身に付け、シートなしでも課題発見ができるようになった。

(2) 単元構成の工夫と振り返りシート

単元構成の工夫としては、「つかむ」過程で単元全体の課題を発見し、その課題を解決するために小単元の課題を設定し、さらに、小単元の課題を解決するために小さな課題を設定したことである。児童は社会的な見方・考え方を働かせる学びを進める中で小単元の課題を解決し、パンフレットにまとめていく。その際、振り返りシートを用いて、どのような視点で、どのように考えたのかを振り返らせ、メタ認知させる。このように、小単元の「まとめる」過程において、振り返りシートを繰り返し活用することで社会的な見方・考え方を働かせた学びを振り返り、学習内容や学び方を次の学習や生活に生かしていくことができる。

3 研究授業（後期）の分析と考察

先に述べたように、社会的な見方・考え方を育むことについて、複数の視点に着目し、社会的事象や事実を比較し関連付けたり、総合したりする思考を通して、説明力の高い概念等に関する知識を獲得することと定義している。

そこで、複数の視点に着目し、小さな課題を発見することができたかを検証する。そして、課題を追究したり解決したりする活動を通して、説明力の高い概念等に関する知識を獲得し、その知識を他の社会的事象の説明に活用することができたかを検証していく。

(1) 単元全体の課題を発見し、その課題を解決するための小さな課題を設定することができたか
ア 複数の視点に着目し、小さな課題を発見することができたか

プレテスト・ポストテスト①では、福山市の琴づくりがさかんであることを取り上げ、福山市が琴をPRするためにパンフレットをつくろうとしている場面を設定した。このテストでは、単元全体の課題として、「なぜ、福山市では琴づくりがさかんのだろうか。」を読み取り、その課題を解決するために社会的な見方・考え方を働かせて小さな課題を考えさせる場面を想定している。そこで、プレテスト・ポ

ストテスト①について、小さな課題を発見するために着目した視点数の変容を図8、視点ごとに分類した変容を表8に示す。

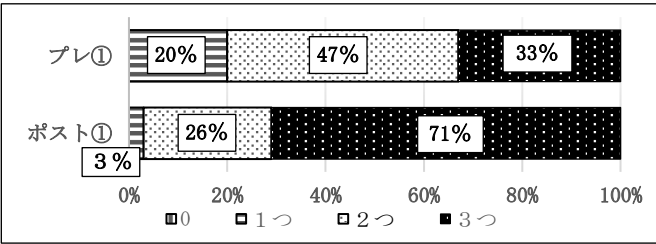


図8 小さな課題を発見するために着目した視点数の変容

表8 発見した小さな課題を視点ごとに分類した変容

	プレテスト①	ポストテスト①
(時)の視点	77	91
(空)の視点	47	73
(人)の視点	83	95
合計数	207	259

図8を見ると、三つの視点に着目した児童は33%から71%に、二つないし三つの視点に着目した児童は80%から97%に増加したことが分かる。また、表8を見ると、(時)の視点に着目した合計数は77個から91個に、(空)の視点に着目した合計数は47個から73個に、(人)の視点に着目した合計数は83個に増加したことが分かる。

この結果から、「なぜ、福山市では琴づくりがさかんのだろうか。」を解決するために、複数の視点に着目して小さな課題を考えている児童が増加し、学級全体において、社会的な見方・考え方をよりよく働かせていることが分かる。視点ヒントシートと振り返りシートを繰り返し活用することで、三つの視点に着目した思考が促進されたためだと考える。

イ 社会的事象の特色や意味を考える課題を発見することができたか

福山市で琴づくりがさかんであることを捉えると福山市が琴づくりがさかんであることを、なぜPRしようとしているのかという疑問が生まれる。そこまで思考が進むと、児童が福山市の琴づくりと福山市が琴をPRしようとしていることを関連付けた課題が生まれることが予想される。そこで、児童が発見した課題を分析し、福山市の琴づくりと福山市が琴をPRしようとしていることを関連付けた社会的事象の特色や意味を考える課題を発見しているかを次頁図9に示す。

図9から分かるように、社会的事象の特色や意味

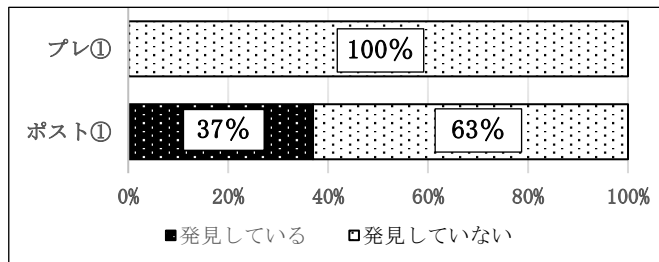


図9 社会的事象の特色や意味を考える課題を発見している児童の割合

を考える課題を発見している児童は、ポストテスト①において37%となった。この結果から、複数の視点に着目した思考が促進されたとしても、その思考したことを比較し関連付けたり、総合したりして社会的事象の特色や意味を考える課題を発見することは、容易ではないことが分かる。そこで、ポストテスト①において、児童が実際に発見した課題を以下に示し、分析、考察を行う。

児童が発見した社会的事象の特色や意味を考える課題
<ul style="list-style-type: none"> ・ 福山市の人々は、琴づくりをどのように生かして町づくりをしているのか。 ・ 福山市の人々は、琴のよさをPRするために、どのような努力をしているのか。

上述のように、ポストテスト①では、「福山市の人々は、琴づくりをどのように生かして町づくりをしているのか。」「福山市の人々は、琴のよさをPRするために、どのような努力をしているのか。」といった社会的事象の特色や意味を考える課題を発見している。なぜ、このような課題を発見できるのかについて考察すると、既習の知識や学び方を生かすことができたからだと考える。具体で述べていくと、児童は、社会的な見方・考え方を働かせて、熊野町の特色について追究したり解決したりする活動をしている。その活動において、(時)(空)(人)の三つの視点に着目した思考を通して、伝統の筆と熊野町の人々の町づくりを関連付け、熊野町の人々は、伝統の筆を生かした町づくりを行い、熊野筆のよさを広めようとしていることを理解している。熊野町についての学習後、宮島町や瀬戸田町についても、社会的な見方・考え方を働かせた問題解決的な学習を繰り返すことで、児童の社会的な見方・考え方は育まれていったと考える。その社会的な見方・考え方を働かせた学びをよりよく発揮することで、ポストテスト①で社会的事象の特色や意味を考える

課題を発見することができたのではないだろうか。

一方で、ポストテスト①において、社会的事象の特色や意味を考える課題を発見できなかった児童は63%だった。児童の記述を分析、考察すると、三つの視点に着目してはいるが、「福山市の琴づくりは、いつ始まったのか。」「福山市の琴づくりは、どこで行われているのか。」「福山市の琴づくりは、誰が始めたのか。」といった琴づくりの事実を問う課題が多かった。本来であれば、琴づくりと福山市の町づくりを関連付けて捉える必要があるが、そこまで思考が深められていないことが分かる。そのため、福山市の琴づくりと福山市が琴をPRしようとしていることを関連付けた社会的事象の特色や意味を考える課題を発見することは難しかったと考える。

以上のことから、視点ヒントシートと振り返りシートを活用し、社会的な見方・考え方を働かせた問題解決的な学習を繰り返し行うことで、単元全体の課題を発見し、その課題を解決するための小さな課題を設定することができたといえる。一方で社会的事象の特色や意味を考える課題を発見するためには、どのような社会的事象や事実に着目して思考し関連付けるのかが重要であることが分かった。

(2) 説明力の高い概念等に関する知識を獲得できたか

ア プレテスト・ポストテスト②について

プレテスト・ポストテスト②で、他の社会的事象について、説明をすることができたかを検証する問題を設定した。そのテストを次頁図10に示す。

プレテスト・ポストテスト②では、福山市をPRするために、琴を取り上げてパンフレットをつくらうとしている場面において、児童が具体的にパンフレットを作成する問題を設定した。このテストでは福山市の特色を説明するために、社会的な見方・考え方を働かせて、四つの資料から読み取った内容を比較し関連付けたり、総合したりする思考が求められることを想定している。なお、四つの資料には、三つの視点に着目した社会的事象や事実が含まれており、具体的には、資料1は(空)の視点、資料2は(時)の視点、資料3と資料4は(人)の視点に着目したもので、どの視点に着目した思考をしているかを可視化できるよさがある。そうすることで、福山市の特色を説明するのに、どの視点に着目し、社会的事象や事実を比較し関連付けたり、総合したりする思考をしているのかが分かる。そこで、児童が作成したパンフレットの見出しをつけた理由を分析し、検証を行うことにする。

○ 福山市では、「琴」づくりがさかんです。そこで、福山市をPRするために、「琴」を取り上げて、パンフレットをつくりたいと思います。次の資料をヒントにして、「見出し」をつけましょう。また、「見出し」をつけた理由も書きましょう。

資料 1



福山市は、広島県の東に位置する。瀬戸内海に面し、降水量は、県内で1番少ない。人口は、約46万人で県内第2位。琴の生産量は、日本一。

資料 2



「福山琴」の歴史は古く、江戸時代からつくられている。福山城の藩主（リーダー）たちが「音楽」を大切にしていたこと、琴をつくるための材木が近くにあったことがきっかけといわれている。

資料 3

資料 4

見出し

理由

図10 プレテスト・ポストテスト②

イ プレテスト・ポストテスト②の結果から

プレテスト・ポストテスト②の判断基準を表9、結果を表10に示す。

表9 他の社会的事象について説明をすることができたかを検証する判断基準

段階	判断基準
A	複数の資料を関連付けて解釈し、福山市が伝統を受け継ぎ、どのような町をめざし、町づくりをしているかを説明している。
B	複数の資料を関連付けて、福山市が伝統を受け継ぎ、町づくりをしていることを説明している。
C	資料を基に、福山市の琴づくりまたは町づくりについて説明している。
D	無記入

表10 他の社会的事象について説明をすることができたかのプレテスト・ポストテスト②の結果

プレテスト \ ポストテスト	A	B	C	D	計
A	4	1	0	0	5
B	19	5	0	0	24
C	2	47	13	0	62
D	0	0	10	0	10
計	25	53	23	0	101

表10のように、プレテスト②では、A、B段階の児

童は29人（29％）から、ポストテスト②では、78人（79％）と増加した。

次に、プレテスト②ではB段階であったが、ポストテスト②ではA段階となった児童aの記述の変化について表11に示す。

表11 児童aの記述の変化（下線は稿者）

	段階	児童a
プレテスト②	B	福山市は、江戸時代からつくられている <u>伝統の琴</u> を生かして、琴まつりや小・中学生琴コンクールを開いて <u>町づくり</u> をしている。
ポストテスト②	A	江戸時代から始まった <u>伝統の琴</u> は、人々の工夫や努力によって引き継がれている。 福山市では、 <u>伝統の琴を大切に</u> して、 <u>琴のよさをたくさんの人に知ってもらったり未来につなげたりするために</u> 、小・中学生琴コンクールや琴まつりを開いて <u>町づくり</u> をしている。

プレテスト②では、資料2と資料4を関連付けて「福山市が伝統の琴を生かし、琴まつりや小・中学生琴コンクールを開いて町づくりをしている。」ことを捉えている。ポストテスト②では、資料2と資料3を関連付けて、「江戸時代から始まった琴づくりが人々の工夫や努力によって引き継がれていること」を捉え、「福山市では、伝統の琴を大切にして琴のよさをたくさんの人に知ってもらったり未来につなげたりするために、小・中学生琴コンクールや琴まつりを開いて町づくりをしている。」というように、福山市がどのような町づくりをめざしているのかを解釈し、伝統を引き継ぎ、保護・活用していくために琴コンクールや琴まつりを行っていることを捉えている。このように、複数の視点に着目し、社会的事象を比較し関連付けたり、総合したりする思考を通して、より説明力の高い概念等に関する知識を獲得していることが分かる。

ウ 視点ヒントシートと振り返りシートの記述から

次に、振り返りシートの記述を基に、獲得させる説明力の高い概念等に関する知識の判断基準と適切な内容になっている児童の割合を次頁表12に示し、考察する。

この結果を見ると、熊野町を事例とした学習において適切な児童の割合が73％から、広島県の学習においては91％と上昇していることが分かる。そこで社会的な見方・考え方を働かせた熊野町を事例とした学習を、宮島町を事例とした学習に生かした児童bの振り返りシートの記述の変化を次頁表13に示し考察する。

表12 振り返りシートの判断基準と適切な内容になっている児童の割合

学習内容	判断基準	適切な内容の児童
熊野町	熊野町の特徴について、伝統の筆を生かした町づくりをしていることを捉えている。	73%
宮島町	宮島町の特徴について、厳島神社の文化を生かした町づくりをしていることを捉えている。	81%
瀬戸田町	瀬戸田町の特徴について、自然環境に適したレモンを生かした町づくりをしていることを捉えている。	77%
広島県	広島県には、伝統や文化、自然環境などの特色を生かした地域があり、人々は協力して産業などの発展に努めていることを捉えている。	91%

表13 児童bの振り返りシートの記述の変化

学習内容	視点	記述内容
熊野町	(時) (人)	○伝統の筆づくりを生かして、熊野町の人々は町づくりをしているので、(時)と(人)の視点に注目するのが大切だと考えました。
宮島町	(時) (人)	○熊野町と似ていて、平安時代に建てられた厳島神社の文化を生かして、宮島町の人々は町づくりをしているので、(時)と(人)の視点に注目するのが大切だと考えました。
瀬戸田町	(空) (人)	○自然環境に適したレモンづくりを生かして、瀬戸田町の人々は町づくりをしているので、(空)と(人)の視点に注目するのが大切だと考えました。
広島県	(時) (空) (人)	○広島県は、伝統の筆づくりを生かした町づくりをしている熊野町、厳島神社の文化を生かした町づくりをしている宮島町、自然環境に適したレモンづくりを生かした町づくりをしている瀬戸田町のような地域がある。 <u>広島県には、伝統や文化、自然環境などの特色を生かした地域があり、人々は協力して町づくりをしている。</u>

児童bの振り返りシートを分析すると、宮島を事例とした学習において、下線部に示すように、熊野町を事例とした学習で獲得した説明力の高い概念等に関する知識を活用して学習を進めていることが分かる。また、瀬戸田町を事例とした学習では、社会的事象が変わることにより、どのような視点を働かせると有効であるのかを考え、(空)と(人)の視点を働かせ、自然環境に適したレモンづくりと瀬戸田町のレモンを生かした町づくりを関連付けて捉えていることが分かる。このように、小单元ごとに振り返りシートを活用し、着目した視点を可視化し、

振り返ることで、児童は社会的事象に対しどのような視点を働かせるとよいのかをメタ認知でき、次の学習にも生かすことにつながっていることが分かる。そして、このような学習の積み重ねにより、単元末には、「広島県には、伝統や文化、自然環境などの特色を生かした地域があり、人々は協力して町づくりをしている。」といったより説明力の高い概念等に関する知識を獲得することができている。

以上のことから、視点ヒントシートと振り返りシートを活用し、児童自らが課題を発見し、課題を追究したり解決したりする問題解決的な学習を繰り返して行えば、社会的な見方・考え方を働かせた学びを進める中で、説明力の高い概念等に関する知識を獲得することができるといえる。

(3) 視点ヒントシートと振り返りシートを活用することは、社会的な見方・考え方を働かせる学びを進めるのに有効であったか

A 視点ヒントシートについて

事後アンケートの結果と記述内容から、社会的な見方・考え方を働かせる学びを進めるのに、視点ヒントシートは有効であったかを考察する。事後アンケートの結果を図11に示す。

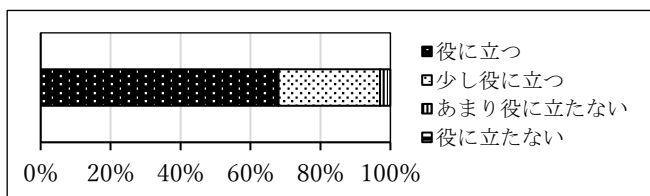


図11 自分の調べたいことを見つけるのに、視点ヒントシートは役に立ちましたか【総数100人】

肯定的な回答をしている児童は97%おり、その理由について、児童の記述を表14に示す。

表14 事後アンケートの児童の記述

	回 答
課題発見	<ul style="list-style-type: none"> ○三つの視点があり、考える時のヒントになる。 ○前の学習の問い「どのように、なぜ」があり、調べたいことを見つけやすい。 ○三つの視点があると、比べたりつなげたりして考えることができる。 ○自分の調べたいことをヒントシートに直接書けるので、自分の考えを見直しやすい。
解決したりする活動	<ul style="list-style-type: none"> ○何に注目すればよいか分かり、予想を考えやすく、学習を進めやすい。 ○「なぜだろう」という意識が高まり、三つの視点に注目することで、比べたりつなげたりして考えることができる。 ○三つの視点に注目すると、考えやすくまとめを書ける。

課題発見の学習場面では、「三つの視点があり、考える時のヒントになる。」「前の学習の問い『どのように、なぜ』があり、調べたいことを見つけやすい。」といった記述が多く、社会的事象を見たり考えたりする際の視点を示しておくことで、視点に着目した思考をする支援となったことが分かる。この思考を通して、単元全体の課題を解決するための小さな課題を発見することができたと考える。また、「三つの視点があると、比べたりつなげたりして考えることができる。」といった記述もあり、三つの視点に着目した思考を比較し関連付けたりすることで、よりよく社会的な見方・考え方を働かせる学びを進めることができている。「自分の調べたいことをヒントシートに直接書けるので、自分の考えを見直しやすい。」といった記述からは、視点に着目した思考を表出しやすく、その表出した内容を吟味し思考を深めていく様子も伺える。

課題発見後の課題を追究したり解決したりする活動においても、「何に注目すればよいか分かり、予想を考えやすく、学習を進めやすい。」といった記述から、課題を解決するための予想や考察の場面の充実が図られたことが分かる。また、「『なぜだろう』』という意識が高まり、三つの視点に注目することで、比べたりつなげたりして考えることができる。」「三つの視点に注目すると、考えやすくまとめを書ける。」といった記述からは、視点に着目した思考ができることで、課題の追究や解決へ向けて学習意欲が高まり、児童自らが社会的な見方・考え方を働かせていたのではないかと考える。

以上のことから、視点ヒントシートを活用することは、社会的な見方・考え方を働かせる学びに有効であったことが分かる。

イ 振り返りシートについて

事後アンケートの結果と記述内容から、社会的な見方・考え方を働かせる学びへの振り返りシートの有効性を考察する。事後アンケートの結果を図12に示す。

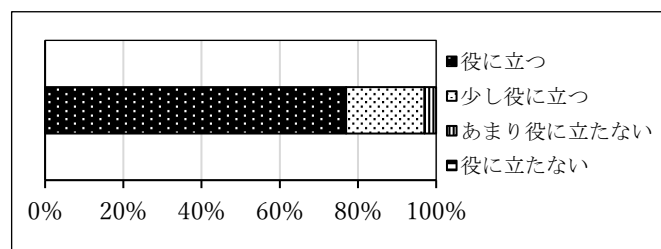


図12 学習を進めていく上で、振り返りシートは役に立ちましたか。【総数100人】

肯定的な回答をしている児童は97%おり、その理由について、児童の記述を表15に示す。

表15 事後アンケートの児童の記述

回 答
○パンフレットに書いた内容を、何に注目して考えたのかを振り返ることで、地域の特徴を説明しやすい。
○先生からのメッセージで新しい視点に気づき、地域の特徴を伝えることができる。
○パンフレットに書いた内容を繰り返し振り返ることで、自分の考えの変化に気付いたり整理できたりして、次の学習に生かせる。

表15に「パンフレットに書いた内容を、何に注目して考えたのかを振り返ることで、地域の特徴を説明しやすい。」とあるように、説明力の高い概念等に関する知識を獲得するために、どの視点に着目しどのような思考をしたのかを振り返ることで、獲得した概念等に関する知識を活用できることが分かる。また、「先生からのメッセージで新しい視点に気づき、地域の特徴を伝えることができる。」とあるように、自分では気付かなかった視点や考え方を知ること、社会的な見方・考え方を働かせた学びを深め、次の学習に生かせることが分かる。さらに「パンフレットに書いた内容を繰り返し振り返ることで、自分の考えの変化に気付いたり整理できたりして、次の学習に生かせる。」といった記述もあり説明力の高い概念等に関する知識を獲得した思考過程を繰り返し振り返ることで、社会的な見方・考え方を働かせた学びが促進されていると考える。

これらのことから、社会的な見方・考え方を働かせた学びを繰り返し振り返ることで、学習内容や学び方が確かなものになり、新たな視点に着目した思考を通して、説明力の高い概念等に関する知識を獲得できることが分かる。

以上のことから、振り返りシートを活用することは、社会的な見方・考え方を働かせる学びに有効であったことが分かる。

VI 研究のまとめ

1 研究の成果

視点ヒントシートと振り返りシートを活用し、児童自らが課題を発見し、課題を追究したり解決したりする活動を通して、社会的な見方・考え方を働かせた学びを進め、説明力の高い概念等に関する知識を獲得し、活用できたことから、社会的な見方・考

え方を育むことに有効であることが明らかになった。

2 研究の課題

今回の研究において、多くの児童が複数の視点に着目し、小さな課題を発見したり、その課題を解決することができた。しかし、課題設定の場面において、社会的事象の特色や意味を考える学習課題を発見することについては課題が残った。この課題を解決するために、どういった社会的事象や事実に対して社会的な見方・考え方を働かせるるとよいのか、どういった発問や問いかけが効果的なのか、継続して研究していく。また、2枚のシートを活用する社会的な見方・考え方を働かせる学習は、他単元においても有効であるのかを検証し、改善を図っていく。

【注】

- (1) 文部科学省（平成28年）：『幼稚園、小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校の学習指導要領等の改善及び必要な方策等について（答申）』p.132に詳しい。
- (2) 文部科学省（平成28年）：前掲書「別添資料」pp. 3-5に詳しい。
- (3) 文部科学省（平成29年）：『小学校学習指導要領解説社会編』p.147に詳しい。
- (4) 北俊夫（2017年）：『思考力 判断力 表現力を鍛える新社会科の指導と評価』明治図書pp.28-32
- (5) 森分孝治（1978年）：『社会科授業構成の理論と方法』明治図書pp.102-116に詳しい。
- (6) 岡崎誠司（2013年）：『見方考え方を成長させる社会科授業の創造』風間書房pp.34-35に詳しい。
- (7) 白水始（2016年）：『資質・能力理論編』東洋館出版社pp. 202-203に詳しい。

【引用文献】

- 1) 文部科学省（平成28年）：前掲書p.134
- 2) 文部科学省（平成29年）：前掲書p.20
- 3) 文部科学省（平成29年）：前掲書p.19
- 4) 大杉昭英（2017）：『授業改革のマスターキー』明治図書p.46
- 5) 文部科学省（平成29年）：前掲書p.60
- 6) 澤井陽介（2017）：『新教育課程ライブラリⅡ（Vol.3）』ぎょうせいp.23
- 7) 文部科学省（平成29年）：前掲書p.23
- 8) 文部科学省（平成29年）：前掲書p.24
- 9) 文部科学省（平成29年）：前掲書p.20
- 10) 文部科学省（平成29年）：前掲書p.21
- 11) 吉水裕也（2002）：「『位置と分布』概念に関する問題発見構造一日英教科書分析を通して」『新地理49-4』日本地理教育学会p.18
- 12) 文部科学省（平成29年）：前掲書p.4
- 13) 澤井陽介（2013）：『小学校社会 授業を変える5つのフォーカス』図書文化社p.38
- 14) 澤井陽介（2013）：前掲書p.84
- 15) 岡崎誠司（2013）：前掲書p.32
- 16) 澤井陽介（2013）：前掲書p.40